

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成 28 年 4 月 27 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 物質－細胞統合システム拠点

職 名 拠点長

氏 名 北 川 進

助成の種類	平成 27 年度 ・ 社会連携助成		
事業名	萌芽的科学技術の“おもしろさ”を社会と共有するマルチメディア対応活動の展開		
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日 ～ 平成 28 年 3 月 31 日		
実施場所	京都大学iCeMS、茨城大学、科学フェスティバル会場(うめきた・グランフロント大阪北館 ナレッジキャピタル)、京都水族館など		
参加者	総数 約1100人	内 訳 「成果の概要」参照	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(活動報告資料など)		
会計報告	事業に要した経費総額	3,017,658円	
	うち当財団からの助成額	2,600,000円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)	WPI運営経費
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	デザイン・制作費 <small>(ポスター・教材のデザイン・印刷など)</small>	1,290,816	945,216
	消耗品 <small>(活動で使用した教材など)</small>	592,890	590,020
	消耗品 <small>(文房具や機材など)</small>	40,726	40,118
	謝金・雇用	188,540	179,740
	旅費	183,220	123,440
通信運搬費	7,222	7,222	
請負費 <small>(イベント運営や翻訳など)</small>	143,140	143,140	
その他 <small>(情報収集のための学会参加費や音声書き起こし費など)</small>	571,104	571,104	
合 計	3,017,658	2,600,000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 幅広い人々が参画できるような社会連携活動を実施するには、すぐれたデザインが必要である。また、特定の媒体だけでなく、複数のメディアによる発信／受信が必要になる。今回の助成は、場のデザイン、広報媒体のデザイン、教材やワークショップツールのデザインなどを洗練させるために活用させていただいた。また、様々な層の人々にアプローチするための新しい試みも実施することができた。貴財団の助成を活用することによって、より質の高い活動を実施することができたと思われる。		

## 成果の概要

京都大学 物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)  
科学コミュニケーショングループ

京都大学 物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS) は、本助成事業を活用し、平成 27 年度中に以下の科学コミュニケーション活動を実施した。

### 1) 成人&科学・技術への低関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
ゲームマーケット 2015 秋へのブース出展「はじめまして 京都大学です」	2015 年 11 月 22 日	東京ビッグサイト (東京国際展示場) 東 4 ホール	900 人以上

“電源を使用しない” アナログゲームのイベント「ゲームマーケット 2015 秋」に向き、科学・技術への低関心層の人々にアプローチすることを目指した\*1。

### 2) 青少年&科学・技術への低関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
親子連れ向けワークショップ NHK E テレ『考えるカラス』連動ワークショップ「ここから先をみんなで考えてみる」 *一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2015 SUMMER」内のワークショップとして実施	2015 年 8 月 1-2 日	うめきた・グランフロント大阪北館 8 階ナレッジキャピタル内 タワーC カンファレンスルーム 06&1 階 ナレッジキャピタル内 カフェラボ	33 組
NHK 新番組「カガクノミカタ」とのコラボレーション 「太陽と星空のサーカス」イベント連動ワークショップ オットセイとアザラシを科学しよう!	2015 年 10 月 10 日	京都水族館、梅小路公園	29 人
親子連れ向けワークショップ「しっかり遊べ。京都大学発ボードゲームで研究者の働き方、チームや班の中での働き方を学ぶ。」	2015 年 11 月 14 日	うめきた・グランフロント大阪北館 1 階 ナレッジキャピタル内 カフェラボ	14 人

京都大学教育研究振興財団助成事業 平成27年度 社会連携助成  
「萌芽的科学技术の“おもしろさ”を社会と共有するマルチメディア対応活動の展開」

<p>*一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2015 Autumn」内のワークショップとして実施</p>			
<p>親子連れ向けワークショップ NHK E テレ『考えるカラス』連動ワークショップ「ここから先をみんなで考えてみる」 *一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2015 Autumn」内のワークショップとして実施</p>	<p>2015年 11月15日</p>	<p>うめきた・グランフロント大阪北館1階 ナレッジキャピタル内 カフェラボ</p>	<p>19人</p>
<p>親子連れ向けワークショップ NHK E テレ『考えるカラス』連動ワークショップ「ここから先をみんなで考えてみる」 *一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2016 SPRING」内のワークショップとして実施</p>	<p>2016年 3月26日</p>	<p>うめきた・グランフロント大阪北館1階 ナレッジキャピタル内 カフェラボ</p>	<p>15人</p>
<p>親子連れ向けワークショップ「"超・立体的"協力ボードゲーム「TATEWARI」～しっかり遊べ。遊びながら学べ。～」 *一般社団法人ナレッジキャピタル主催 「ワークショップフェス in ナレッジキャピタル 2016 SPRING」内のワークショップとして実施</p>	<p>2016年 3月26日</p>	<p>うめきた・グランフロント大阪北館1階 ナレッジキャピタル内 カフェラボ</p>	<p>13人</p>

商業施設グランフロント大阪内で開催されたフェスティバルの一環として、親子を対象としたワークショップを実践した。今年は、新たに京都水族館との連携も試みた。NHKの理科教育番組を活用した「科学の考え方」を学ぶことができるワークショップ\*2,3,4とiCeMS研究者が開発に関わったボードゲームを活用して「研究者の仕事の仕方」を学ぶことができるワークショップ\*5の2種類を実施した。この取組が評価さ

京都大学教育研究振興財団助成事業 平成27年度 社会連携助成  
「萌芽的科学技术の“おもしろさ”を社会と共有するマルチメディア対応活動の展開」

れ、第3回ナレッジイノベーションアワードの最終選考にノミネートされ<sup>\*6</sup>、近畿経済産業局長賞を受賞した。

### 3) 青少年&科学・技術への高関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
教員向け実験教室「iCeMS/CiRA クラスルーム 2015 in 茨城大学：幹細胞研究やってみよう！まずは観察から」	2015年 10月31日	茨城大学 教育学部 D棟 D-102 講義室	22人
高校生向け実験教室「iCeMS/CiRA クラスルーム 2015 in 茨城大学：幹細胞研究やってみよう！まずは観察から」	2015年 11月1日	茨城大学 教育学部 D棟 D-102 講義室	34人

関東圏の高校生にもアプローチするために、今年度は初めて関東で開催した。今年度は茨城大学推進研究プロジェクトと共催し、水戸市の茨城大学内にて開催した<sup>\*7</sup>。

### 4) 成人&科学・技術への高関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
第17回 iCeMS カフェ：「記憶」の仕掛けをのぞく	2015年 8月23日	京都大学 iCeMS 本館 2F 交流ラウンジ	21人
第18回 iCeMS カフェ：炭素と水の物語—CO <sub>2</sub> 再利用のすゝめ—	2016年 1月9日	京都大学 iCeMS 本館 2F 交流ラウンジ	17人

これまで参加できなかった層の参加者にも足を運んでもらえるように、初めて託児サービス付きの iCeMS カフェを開催した<sup>\*8, 9</sup>。iCeMS カフェでの参加者と研究者の対話が、互いに学び多いものになるように、研究者には iCeMS カフェの事前事後に対話カトレーニングを実施した<sup>\*10</sup>。

注釈

\*1：開催報告は iCeMS 科学コミュニケーショングループのウェブサイトに掲載されている。

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2015/11/201520151122.html#report>  
添付資料 1 参照。

\*2, 3, 4：開催報告は iCeMS および iCeMS 科学コミュニケーショングループのウェブサイトに掲載されている。

<http://www.icems.kyoto-u.ac.jp/j/rsch/scg/2015/09/01-kc-report.html>  
<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2015/10/nhk.html#report>  
<http://www.icems.kyoto-u.ac.jp/j/rsch/scg/2015/12/15-karasu-rpt.html>  
添付資料 2, 3, 4 参照。

\*5：開催報告は iCeMS のウェブサイトに掲載されている。

<http://www.icems.kyoto-u.ac.jp/j/rsch/scg/2015/12/14-bg-rpt.html>  
添付資料 5 参照。

\*6：開催情報はナレッジキャピタルのウェブサイトに掲載されている。

[http://kc-i.jp/activity/award/innovation/2015/sankaku/entry\\_k27.php](http://kc-i.jp/activity/award/innovation/2015/sankaku/entry_k27.php)  
添付資料 6 参照。

\*7：開催報告は iCeMS のウェブサイトに掲載されている。

<http://www.icems.kyoto-u.ac.jp/j/rsch/scg/2015/11/17-cr7-rpt.html>  
添付資料 6 参照。

\*8, 9：開催報告は iCeMS のウェブサイトに掲載されている。

<http://www.icems.kyoto-u.ac.jp/j/rsch/scg/2015/09/01-cafe17report.html>  
<http://www.icems.kyoto-u.ac.jp/j/rsch/scg/2016/01/09-cafe18-rpt.html>  
添付資料 8, 9 参照。

\*10：開催報告は iCeMS 科学コミュニケーショングループのウェブサイトに掲載されている。

<http://www.scg.icems.kyoto-u.ac.jp/activities/2016/01/18icems.html#report>  
添付資料 10 参照。